

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Summer 2016

Vol.14

特集

シリーズ人形劇に取り組む子どもたち③



Dogushi Vol.14 2016年7月発行 発行：人形劇のまち飯田運営協議会
制作：NPO法人いいた人形劇センター TEL:050-044-0606 FAX:050-044-0604 E-mail: itida-puppet@misjams.or.jp

掲示板 いいた人形劇センターからのお知らせ

海外の劇団が飯田へ続々やってくる!

● **せかいの劇場vol.4**
9月29日(木) 19:00開演
会場:飯田人形劇場
出演:クレドシアター「お父さんのすることはいつもよし」(ブルガリア)
料金:大人2,500円、学生(中高大生)1,800円、子ども(3歳~小学生)1,000円

● **秋の夜長を楽しむ公演**
11月8日(火) 19:30開演
会場:飯田市鼎文化センター
出演:Performing Group「TRASHedy ~地球の正しい使い方」(ドイツ)
料金:大人1,500円、学生(小~大生)1,000円
※対象8歳以上

● **せかいの劇場vol.5**
ハンガリーと日本の小さな舞台
2月18日(土) ①15:00開演 ②18:00開演
会場:飯田人形劇場
出演:①ミクロボディウム「STOPI!」、人形芝居燕屋「肩掛け人形芝居」
②ミクロボディウム「STOPI&CON ANIMA」
料金:①大人1,500円、子ども(小中高生)800円
②大人2,000円、学生(中高大生)1,000円
※対象中学生以上

問合せ:いいた人形劇センター
☎050-3583-3594

Dogushi

並木 さんぽ

“フェスタ”の季節になりました。街のあちこちにポスターや幟旗、中心市街地の商店には手づくりの人形が飾られ、日本最大の人形劇の祭典を盛り上げようという多くの方たちの思いが伝わってきます。そして全国、世界から300を超える劇団が飯田を訪れ、上演します。本号で紹介した飯田市内の小中学生や市民をはじめ、伊那谷の参加劇団は約50で全体の1割を超えるほど。本番に向けて稽古に熱が入る“演じる”側の思いを感じながら、こどもも楽しみたいと思います。

次号は10月発行予定です。(帆)

表紙イラスト:井原千代子



View of IIDA

昨秋より2年計画でスタートした巨大人形劇プロジェクトin南信州。チェコ在住の人形劇師・沢則行氏と飯田下伊那の市民がつくる作品が少しずつ見えてきました。ことしのいいた人形劇フェスタでは10分ほどのデモンストレーションを披露。沢則行監督 巨大人形劇「さんしょううお」の上演日程は8月2日(火)~6日(土)の夜、一日2公演。お見逃しなく!

わかる!! 人形劇用語

「黒衣(くろこ)」

黒装束に黒頭巾、全身黒に身を包み、物の出し入れは自由自在。実際には見えるけど、いないという事になっている。まるで忍者のような存在。それが舞台上の「黒衣」です。「くろこ」というのが元々の読みだったそうです。「黒子」とも書きますが、この場合はその人を指すのみ。「黒衣」の

方はその人も指しますが、衣装の意味で使うこともあり「黒衣を着る」などと言ったりもします。

伝統的な三人遣いの人形劇では、人形遣いは一部の主遣い(メインの人形演技者)を除き、黒衣で演じています。他の伝統人形芝居はもちろん、出遣いスタイルの現代人形劇でも活躍。黒衣は、目立たずに舞台を支える大事な役。転じて「私は今回は黒衣に徹して」などの日常生活でも使いますが、そ



ういう方の中には一番目立つている人もいたりしますけどね。(人形芝居燕屋くすのき燕)



いいだ人形劇センターのスタッフが部活動の時間に出張稽古



フェスタ上演に向け稽古に力が入る子どもたち



みんな真剣な表情で人形を制作します

特集

シリーズ 人形劇に取り組む子どもたち ③

飯田市の小中学校では多くの子どもたちが人形劇活動に取り組んでいます。これは全国的に珍しく、人形劇のまち飯田ならではの特色です。子どもたちが取り組む人形劇活動の様子を紹介するシリーズの三回目は、8月のいいだ人形劇フェスタ上演に向けて稽古に励む和田小学校4年生と、飯田西中学校人形劇部を取り上げます。

和田小学校4年 流れ星

「遠山」名物をいかしたストーリー 子どもたち支える地元シニア劇団

総合的な学習で人形劇に取り組む4年生10人。学びの場「和田つりルーム」に子どもたちの元気な声が響きます。ふだんの授業の指導は担任の林久寿先生ですが、今日は特別に人形芝居燕屋のくすのき燕さんが訪れて指導に当たります。8月のフェスタ上演に向けてみんながつくっているのは「和田のももたろう」。6月半ばには、ほぼ人形が出来上がり、台本も完成。子どもたちは自分の役のセリフをしっかり暗記しています。

「さあ、最初からやってみようか」。くすのき燕さんの掛け声で芝居がスタート。「どんぶらこどんぶらこ」と桃が流れてきて、桃太郎が生まれ成長し、鬼退治に出發…。昔話の桃太郎のように話は進みますが、出てくる小道具やキャラクター、キーワードに「遠山」ならではのものがいくつも登場します。「ここには名物がいっぱいあるから」と目を輝かせて話す子どもたちは、「人形が何を見ているのか、人形との距離感を大切に」と話すくすのき燕さんのアドバイスもしっかり耳を傾けていました。

二人がつなぐ人形劇部の歴史 部活動プラス人形劇講座を受講

飯田西中学校人形劇部 The World

2・3年生が不在となり存続の危機にあった中、4月に入部した1年生の仲井琴美さん、岡本純輝さんの2名が人形劇部20年余の歴史をつなぎます。人形劇のあれこれを教えてくれる先輩がいなかったから、と放課後の部活動を終えた後に週一回、いいだ人形劇センターが行う人形劇講座初級コースを受講しています。

現在、制作しているのは8月のフェスタで上演する「やまんば探し」。桃太郎、赤ずきん、さるかに、舌切りすずめ…と、いろいろな物語の登場人物が次から次へと出てくるオリジナル作品。「いろんな話のいいところを少しづつつけてみたら面白いかな」と話すのは、台本のベースを考えた岡本さん。部長を務める仲井さんは、小学校で人形劇クラブだった経験を生かして、人形づくりや稽古を率先して行います。



主人公のひとり、桃太郎の衣装をつくる岡本純輝さん

4月から主に二人で制作を続けてきましたが、7月からは美術部の仲間2人が応援に入り熱の入った稽古が続けられています。フェスタでは皆で息を合わせた上演が観られそうです。

上演日程 8月6日(土)11:00 飯田市羽場公民館 ※くるま座とジョイント公演

わくわく イベントスケジュール

いいだ人形劇フェスタ 2016

8月2日(火)～7日(日) 特集 関西の人形劇
「沢則行監督 巨大人形劇さんしょうお」
8月2日(火)～6日(土)18:45～21:00
会場／飯田文化会館ホール入り口前
※1日2公演、開演時刻は日によって異なります
「愛知人形劇センター×いいだ人形劇センター共同制作 シェイクスピアが笑う夜『リア王』から」
8月4日(木)16:00-20:30
会場／飯田文化会館ホール舞台上
料金／一律1,500円、ペア2,500円
シンポジウム「人形づくりはやめられない! 関西の人形美術家が大集合」
8月5日(金)15:00 会場／川本喜八郎人形美術館映像ホール

わたちゃんのダンボールししまいワークショップ

頭づくり 8月28日(日)・9月11日(日)10:30
舞の練習 9月25日(日)・10月2日(日)10:30
会場／川本喜八郎人形美術館エントランス前
料金／頭1体400円
ダンボールで獅子頭をつくり、舞を練習。10月16日開催の獅子舞フェスティバル「創作獅子舞コンクール」に出場

せかいの劇場vol.4

9月29日(木)19:00 会場／飯田人形劇場
出演／クレドシアター
「お父さんのすることはいつもよし」(ブルガリア)
料金／大人2,500円、学生(中高生)1,800円、子ども(3歳～小学生)1,000円

人形劇定期公演

5月よりお休みしていましたが9月より再開します。地元の市民劇団の連続公演をお楽しみに。
開催日程／9月3日(土)、10月下旬 会場／飯田人形劇場

上演日程

8月5日(金)18:00 飯田市南信濃地域交流センター
※人形劇団たたくファミリー(奈良)とのジョイント公演

プロ劇団とのワークショップ

6月9日、川崎市のデフ・パペットシアター・ひとみが来校し、和田小の4～6年生が言葉を使わず、「箱」を使って何をしているかを相手に伝える、というワークショップを受講。後日、6月29日に同劇団が再び来校し、セリフのない「箱」を使った作品『BOXES じいちゃんのオルゴール』を上演。これに先立ち、4～6年生が10人ほどでチームをつくり、「箱」を使ったあるシチュエーションを表現。会場に集まった低学年が何をしているのかを当てる、という発表が行われました。



けこみから離れ、場面にあわせた人形との距離を指導するくすのき燕さん(写真左)



南信濃の人形劇団「遠山☆きらり」。平均年齢72歳のメンバーが稽古に参加。子どもたちを見守ります

はたらく飯田のわけちゃん

和氣瑞江

香川県生まれのわたしが「飯田」を知っていたのは、大学のサークルに飯田出身の先輩がいたからでした。その先輩のいる飯田で人形劇のお祭りがあるのなら、これは行かねばなるまいと、何の迷いも無く第1回の人形劇カーニバルに参加しました。人形劇人がはじめたカーニバルなので、いろんなことを自分たちでやりました。飯田のMAP作成、手作りのガイドブック作成、カーニバル当日に配布するニュースを作成(ちなみに創刊当時は「飯田バブル」という名前でしたが、翌年から



「とってもいいだNEWS」になりました。わたしが名前をつけたんですっ、そして夜は雑魚寝で大宴会！寝不足でも次の日の公演にはしっかり出かけて、しっかり交流会にも参加し、五平餅や桃をご馳走になりました。第1回の時はかなりじて学生だったので、どれもこれもあの頃は、若気の至り？？？？できたことかもしれません。フェスタでは上演とワークショップと飯田市公民館2階の売店などをやっていますが、なんとなく、飯田に来たら働かないといけないような気が、今もしているわたしなのでした。みなさん、売店で面白い物してね！

次号は、人形劇団のはな納富俊郎さんです

第3回 すべての道は 飯田へ通ず



「人形劇カーニバル飯田」開催中、毎日発行していた「とってもいいだNEWS」

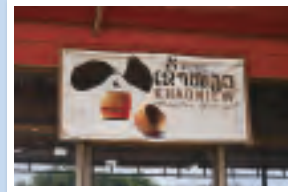


発行 信濃毎日新聞社 1986年 153頁

Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から⑭

『信州の人形芝居』 写真・文 宮本辰雄

伊那谷の早稲田、今田、黒田、古田の人形座と小海の親沢人形三番叟を記録した写真集。飯田では「人形劇カーニバル」が定着し、10周年となる88年の「世界人形劇フェスティバル」開催が見えてきた頃の出版で、それは、伝統人形芝居がまだ地域の人々の生活の中にかろうじて存在していた時代だともいえ、豊富な写真の中からそうした息吹が感じとれる。監修・三隅治雄の序文「単なる娯楽としてではなく、世の中よかれの祈りを基盤に」は人形芝居の本質であり、また巻末の目下下部新一による解説は、簡潔、明解で現在でもそのまま使える「伊那谷の人形芝居」の優れた案内文だと思う。(人形劇の図書館館長・湯見英明)



劇団カオニャオのスタジオ。ラオスの首都ヴィエンチャンの中心部から約4キロ、ワットタイ国際空港のすぐ近くにあります

海外レポート ラオス編

ラオスの オブジェクトシアター 「カオニャオ」

飯田文化会館 人形劇のまちづくり係 北林克己



劇団カオニャオ代表
ラタナコーン・インジエンマイさん。通称トー

ラオスの劇団カオニャオのスタジオを訪ね、劇団代表のラタナコーン・インジエンマイさん(通称トー)にお話を聞きました。カオニャオはラオスの日用品やヤシの実などを使ったオブジェクトシアターの劇団。代表のトーは2000年から国立人形劇場カポーンラオのメンバーとして活動し、2010年にカオニャオを作って独立。ラオスの劇団やサーカスは基本的に全て国立で、団員は皆公務員ですが、カオニャオは政府の許可を得た初めての民間芸術団体です。

彼らの活動は海外で高い評価を受け、今や世界中の国に招かれる超人気グループ。一方ラオス国内でも、芸術を取り入れた青少年向け教育プログラムや聴覚障害者の演劇指導、国際フェスティバルの開催など様々な活動を展開しています。これらの活動のための資金は、ラオス国内にある外国機関へ自ら足を運び獲得しているそうです。

上演日程

- 8月3日(水) 19:00 飯田市公民館ホール
シアターカオニャオwith栗コーダー&ビューティフルハミングバード
料金／一律1,300円
- 8月4日(木) 14:40 フェスタ・セントラルパーク



スタジオの表に飾られている木の実などで作った人形

※もう少し詳しいレポートはいいだ人形劇センターのウェブサイトをご覧ください



いいだ再発見

写真は駅構内より見たところ。2・3番線ホームからも見ることができます



平成4年に完成した現在のJR飯田線・飯田駅の駅舎は、リングゴをイメージした真っ赤な丸い屋根が特徴。正面には大きなステンドグラスが施され、リングゴ、天龍峡、天竜川といった飯田を代表する絵柄や風景が描かれています。そして駅構内にもう一つ、江戸時代から現在まで継承される黒田・今田といった飯田市の伝

「描かれた伝統人形芝居」の巻

統一人形芝居を連想させる絵も描かれています。黒衣の役者が一体の人形を二人で操る「三人遣い」といわれる、伝統人形芝居のスタイルが見てとれ、桜吹雪の中で上演されている様子から毎年4月に奉納公演を行う黒田人形がモチーフになっているのでは、と想像します。が、JR東海に尋ねたところ詳細は不明のよう。どなたかご存知でしたらご一報ください。

さらに、いいだ人形劇フェスタ期間中もつとみぎわいをみせる「フェスタ・セントラルパーク」(中央公園)には、東側入口から階段を上り、噴水へと向かう足元に金属のパネルが4枚あります。阿南町の早稲田人形、箕輪町の古田人形。そして黒田人形、今田人形の「伊那谷四座」と呼ばれる伝統人形芝居の図案が並んでいます。



「伊那谷四座」黒田・今田、早稲田・古田の伝統人形芝居の絵柄が刻まれています



幼稚園で公演後、小学生の子ども劇団の指導



明日も忙しい。そうやって一年が過ぎていく。酒を飲んでいる暇がない！でもこれでいいのだ！



ザ・スリーデイズマーケットシアター2016

飯田市三日市場の公民館委員と地区有志で構成される「ザ・スリーデイズマーケットシアター」。昨年のいいだ人形劇フェスタで、「三日市場にまつわる題材を取り入れた『ほっこり、ぼたもち地蔵』を上演。『もつと地域のことを知ろう、公民館分館でもキャラクターをつくって



ザ・スリーデイズマーケットシアター2016は久保田稔樹さん、森光彦さん、古田耕一さん、熊谷恵子さん、野沢麻子さん、久保田奈美さん(写真左上から時計回りに)、今牧和典さん、近藤和史さん、吉澤真治を加えた9人のメンバー。8月7日(日)10時~三日月市場研修センターで上演。分館キャラクター「みっかぼっちー」「みっかもっちー」も登場します



「肩の力を抜いて楽しくやるのが我らのモットー。人形劇をやる人も、見る人も、地元の良さを知ることができる。素晴らしい交流の場です」と分館長の古田耕一さん(写真右から2番目)

地元を盛り上げよう、それらを使っておもしろいことをしよう、とね。心にあたったかさが残るものを表現しなくては人形劇を始めてみました」と、分館主事で作品の構成人形制作を担当する久保田稔樹さん。ことしは昨年の作品の舞台となった村で新たな出来事が起こる『みっかぼっちーと村のオニ騒動』を上演。「私たちが楽しいからやるというだけでなく、みんなが楽しみにしてくれるようになればうれしい」、「人形は自然な動き、舞台転換はスムーズにできるよう努力する」など、上演2年目に向けたメンバーの意気込みが感じられます。フェスタ最終日、三日市場でどんな騒動が巻き起こるのか、楽しみにしましょう。

全人協通信 専門人形劇団事情⑤ 地域劇団のつづやき

人形劇団とんと 前田 耕一

人形劇団とんとの二日

私たちが地方の地域劇団(夫婦劇団)の活動の様子をちょっとご紹介。



田んぼにて。筆者

ある早朝5時、食事を済ませ、舞台セットを積んだハイエースで上演現場の保育園に向かう。登園ラッシュの前に到着し搬入。上演はもちろんパワー全開で子どもたちと向かい合うので、疲れてへとへと。でもその日は疲れてられない。午後からは小学生の子ども人形劇団の劇作指導に。子どもたちと大バトルをして指導が終了し、帰宅したときには疲れて体が全く動かない。疲れた体を押しも一つの家業、稲作の

一般社団法人 全国専門人形劇団協議会(全人協) 人形劇の普及と芸術性の向上をはかり、人形劇表現への理解と支持を広げることをめざし、1997年に発足。49劇団が加盟しています。